

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 1 年 7 月 28 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200726		
法人名	有限会社 ナックユノ		
事業所名	グループホーム ありらん		
所在地	広島市西区福島町2丁目4-9 (電話) 082-208-5880		
自己評価作成日	令和1年7月13日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490200726-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和1年7月26日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

地域密着型ホームとして6年目を迎え、地域包括支援センターと共催しいきいき体操を立ち上げ6月から実施する。観音地域認知症応援団にも参加する。魅力ある福祉・介護の職場宣言ひろしま認定事業所に選定された。今年度社目標を「地域に根ざす施設を目標に真心こもった暖かい介護を実現する」とし、専門性を活かし地域へ貢献できるよう取り組んでいく。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

「魅力ある福祉・介護の職場宣言ひろしま認定事業所」に選定された事業所である。事業所が目指すべき方針が明確で、理念を具体的に実現するために、毎年度目標を掲げ、活気あるホームづくりを目指している。地域住民が一人でも多く訪れる取り組みとして、いきいき体操や、今年（R1.7）から、スマートフォン教室なども開催している。iPadを導入し日々の記録の効率化を図り、職員が利用者と関わる時間をつくる工夫も画期的だ。本人の自尊心を傷つけないよう独自のフェイスシートを活用、個々の生活意欲に繋げるきめ細かい声掛けの工夫も特徴的であった。地域との交流も大事にし、年間計画に基づいて、地区の文化祭、緑化活動などに積極的に参画している。管理者は、利用者の声、介護現場の声を大切に、業務改善、福利厚生などを含め、魅力ある職場づくりにも力を入れている。

自己評価	外部評価	項 目（ 2階 ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員一人一人が日報に記述し、関心を持ち実現すべき心がけている。また、実践している。	以前は、理念を唱和しながら取り組んでいたが、より理念を深く実践していくために、代表者が毎年年間目標を打ち出している。取り組んできた課題と問題点を明らかにし、1年ごと振り返り検証しながら取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	カフェや福島地区文化祭に参加する。行事等を行い地域との交流を図れている。また「花と緑のまちづくり」花壇植替え緑化活動を継続し取り組むことで利用者の社会参加を促している。敬老の日に合わせ幼稚園児が訪問し交流をもっている。	近くにコミュニティセンター（いきいきプラザ）があり、地域住民の方が集い、手芸や文化祭などに参加され交流の場となっている。「花と緑のまちづくり」として、ホームとしてのブースがあり、花の植え替え、草むしり、水やりなど活動を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	行事等通じて施設や認知症人に関心をもっただき接し方を助言したりしている。毎年バザーを開催し、一部収益金を地域に還元している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	偶数月の第三（水）13：00より開催。参加者が固定しているが、情報提供意見交換している。いきいき体操に参加している方もいて、体操終了後開催することもある。	今年（R元年5月）より、1階デイサービスを活用し、健康いきいき体操を実施している。家族参加が少ない状況を受け、今年（R元年6月）より、日曜日開催のカフェ兼ねて実施した経緯がある。現状を報告するなかで、相談・検討を行い、それらの意見をサービス向上に活かしてる。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	西区生活課のケースワーカーや民生委員への報告、相談をしている。観音圏域包括センター等認知症応援団に参加している。	ケースワーカーを通して連携を図ることもある。地域包括支援センターを中心に、認知症の理解を広める目的で、2カ月毎に認知症応援団に参加し、高齢者関係施設（小規模多機能、グループホーム、特別養護老人ホームなど）との地域ネットワーク、協力関係が構築されている。	

自己評価	外部評価	項 目(2階 ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束等委員会定期的に開催し、随時回覧報告を行いケアに取り組んでいる。玄関の施錠はせん妄・帰宅願望等に応じて予防策を実施している。三階フロアは開放中。	委員会を設置し、事業所独自のガイドラインに基づいて、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。行動を制限しないように、言葉がけにも十分気を付け、個々のケース検討を重ねている。注意喚起として、否定的にならないように代替えの言葉を使うように各ユニットに書面を掲示している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	抑制的ことば使いなど掲示し自己啓発に努めている。職員同士で介助を見直し、二人で介助するなど精神的なフォローを行う。入浴、脱着時の身体チェック変化時看護師及び管理者への報告を義務づけている。個別にスタッフ面談し指導する。ビデオ撮影による現場研修も行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	社会福祉協議会のかけはしを利用している方がおられ、情報提供を頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	介護度が重度になり、特養への住み替え相談や入院後施設へ戻れなくなった際など関係者を交え行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会や運営推進会議・面会時等意見聞いて反映できるようにしている。	今年（R元年6月）より、居室担当者が毎月暮らしぶりを報告している。意見・要望については、独自の個人情報提供シートを活用している。本人や家族の背景を把握し、個別対応ができるように配慮している。以前からの家族会を充実したいと考えている。	

自己評価	外部評価	項 目 (2階 ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営について代表者は年2回全体会議で報告がある。話を聞く機会はありません。共有する議題や提案は、ユニット単位のミーティングを実施し意見交換をしている。業務改善に繋がっている。	年2回の個人面談を実施している。現場の声を大切にし、業務改善や福利厚生などの充実をしている。業務改善の一例として、昨年（H30年7月）より、介護記録のiPadを導入し、利用者との関わりを増やす取り組みをした経緯がある。職員個人の状況に応じた柔軟な勤務形態もされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	毎月シフトを作成する時に月2日の希望休は、ほぼ可能に取れている。スタッフ不足で時間外労働は、全員が協力し補っている。体調不良者には傷病手当提案している。勤続年数10年15年表彰がある。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	必要と考えられる内外の研修に参加し、働きながらのOJTを行っている。各種委員会不定期となっているが、職員の能力向上を目指しそれに応じた環境を整備する。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	相互訪問活動に取り組みたい。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前の習慣など要望意向を聞き確認している。日々時間にゆとりがあれば聞き取りながらできる。		

自己評価	外部評価	項 目 (2階 ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	担当学会議や面会時に要望意向を聴き確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	施設体験入居や家族介護者の入院などで急なショートステイを受け入れる。特養の申し込み、特養が空くまでなど要望に対応する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	全て介助するのではなく、本人のすることは、家事など役割をもって共同生活をする。フロアでの作品づくり共同作業など楽しむ。残存能力に対するアプローチを日々積極的に検討している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	外出外泊を家族様に協力頂いている。6月より居室担当者が、家族に手紙を書く取り組みを行っている。面会に来られるのが難しい家族様に近況報告をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	墓参りやデイサービスには行くことはある。又、人物に関しては面会頼みとなっている。	本人の状況によっては、ホームに入居し、新たな環境で、色々な関わりを持つことにより、本人にとって馴染みの場となるように支援している。お墓参りや、デイサービスに行くことで、馴染みの人や場所との関係が途切れないように、旧知の関係性を紡いでいる。	

自己評価	外部評価	項 目 (2階 ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人で過ごしたい利用者の性格や時間を把握し、大切にしている。合同レクや外出行事に、互いに声を掛け参加を促している。相性が悪い等トラブルを回避するよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	挨拶状などで関係性を継続し、相談援助に努めたい。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日の会話から、本人の思いや希望になるべく添えるよう努めている。無理にレクリエーションに参加することなく、その人に好きなことをしてもらっている。	日々の会話や行動などを情報提供シートや日誌に記録し、職員全員が共有している。日頃の会話の中から、本人の思いや要望を聴き取り、職員の価値観を押し付けないよう留意している。利用者のペースに合わせ活動し、個人の想いを大事にした取り組みをされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	フェイスシートをもとに、生活歴や職歴趣味等情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	定期的なミーティングだけでなく、毎日スタッフ同士でコミュニケーションをとって現状の把握に努めている。その都度その人の状況を相談している。		

自己評価	外部評価	項 目 (2階 ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ミニミーティングなどを行い、現状の対応を理解し行っている。	今迄の趣味や生活習慣が継続できるように介護計画を作成及び実施をしている。病院から退院時の担当会議には、医師、看護師も参加され充実した介護計画の作成ができるように取り組んでいる。本人をよく理解されている担当職員が本人への聴き取りを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者別情報提供シートや申し送りノートを利用し、情報を共有し介助に反映している。状況変化に応じてその都度話し合っ、どうすればいいか検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	デイサービス、介護タクシーで外出等可能な限り、複合型施設を活用する。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	「花と緑の街づくり」事業に参加し入居者と共に行う。認知症カフェに入居者参加し、外出の機会を少しだがをつくれている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月数回の主治医往診あり。または家族の支援で通院している。入居前から通院している利用者の中には介護タクシーを利用し同行介助している。夜間緊急時看護師や主治医に連携し指示を仰いでいる。	緊急時や看取りのことを踏まえ、ホームの協力医をお願いしている。看護職員が配属され、月2回の往診体制、必要時は、歯科の往診を受けられる体制が整えている。協力病院以外については、介護タクシーの利用、家族対応をお願いしている。	

自己評価	外部評価	項 目(2階 ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	本人の訴え、処置時観察をまとめて、看護職と連携し支援している。それにより外来受診や点滴など早期医療連携に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報提供書を作成し病棟へ提出している。カンファレンスに看護師や管理者が参加し、協議し受け入れ態勢を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に説明すると共に、食事水分摂取量低下状況嚥下等胃ろうや延命についてターミナルをどこで迎えたいか（ACP）看取り希望等家族本人へ意向を確認する。職員同士の情報交換を密にし、調整し取り組んでいる。	入居時に今後の終末期についての意向確認をしている。希望があれば最後まで看取りを行う方針である。契約時に「看取りに関する指針」を取り交わしをしている。状態変化に応じて、かかりつけ医との話し合いを重ねての対応方法とし、家族と検討を行い対応方針を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時マニュアルをもとに、揭示確認や回覧にて啓発に努め、ヒヤリハット事例検討の際に再確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	揭示物啓発で確認、年2回消防署立ち合いのもと訓練実施する。新任参加・地域住民への参加呼び掛けしている。避難場所は理解できているが、協力体制は未知数である。	年2回消防署職員の立ち合いのもと訓練（日中、夜間想定）をしている。訓練開始前に、近隣住民への案内を行っているが、参加が難しい状況を踏まえ、今後は地域の方との協力体制づくりを進めたいと考えている。災害に備えて、3日程度の水・食料などの備蓄も準備されている。	

自己評価	外部評価	項 目（ 2階 ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	接遇等意識づけしている。利用者一人一人に対して、具体的にどうしたかなど申し送りを共有しサービスの向上に努めている。	何事も肯定的に捉え、本人の顔を見て聴くことに徹している。個々の生活意欲や意思決定に繋がるような声掛けの工夫に努めている。回覧物で啓発をしたり、終礼時にケアチェック表をもとに自己点検をして、気づきや振り返りをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	スタッフが交代するなど言いやすい環境をつくる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人のペースを大切にし、本人の過ごしやすい環境づくりに努める。転倒リスクなどが先に立ち、添えないこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	援助が必要な方には、季節ごと衣替えを行う。その日に合った服装や日々の身だしなみに注意し対応できている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	日曜日の昼食は、準備など役割分担しながら行う。合同レク行事等ボランティアと一緒にすることもある。テラスの菜園でサンチュ収穫などより食事を楽しんでもらえるよう支援している。	1階部分に厨房があり、厨房からの食事提供がある。屋上（5階）のテラスでは、菜園で取れた野菜を食事に適宜生かしている。日曜日の昼食時は、手作り食（焼きそば、カレーなど）を取り入れ、食事が楽しめる工夫や雰囲気づくりをしている。	

自己評価	外部評価	項 目 (2階 ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎食後食事や水分摂取量をチェックし、摂取量が減少している時は代用品で対応する。食事形態やエンシュア、ゼリーや好みの飲料で水分確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、声掛け誘導にて歯磨きを行っている。スポンジブラシなど残存物の取り出しや義歯の洗浄実施。定期的に毎週水曜日協力歯科往診により義歯洗浄、プラーク除去等をお願いしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一日の排泄があった時間内容をチェック記入し、スタッフ全員で管理し失敗がないようにしている。夜間はポータブル使用や誘導で便座に座る、立位不可な場合は定期的なパット交換しオムツの軽減に努めている。	介護記録のiPadを活用し、排泄状況の検証を行っている。状態に合わせてのトイレ誘導や身体状況に応じて、夜間はベッド近くに、ポータブルトイレの設置を行い、紙おむつの軽減に努めている。毎年業者の協力を得て、紙おむつ研修を実施し、紙おむつ類の適切な選定をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎朝、体操レク運動に参加促す。入浴時腹部マッサージをする。排便ノートの活用にて排便パターンを把握して、下剤を服薬調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴曜日時間は2グループに分けて対応。本人の気分や体調により臨機応変に。皆様入浴を楽しみにされており、その気持ちに応えられている。現在リフト浴者いない。	週3回の入浴機会を設け、入浴時間も午前または午後の時間帯で、なるべく個人の好きな時間帯に合わせている。入浴が楽しめる工夫として、父の日、母の日、子どもの日などイベント日に入浴剤の活用をしている。入浴基準、手順書を脱衣場に掲示することで確認しながら対応している。	

自己評価	外部評価	項 目 (2階 ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	日中はできるだけ活動を促し、 昼夜逆転しないようにする。夜 間は照明や空調に配慮して気持 ちよく休んで頂けるよう支援し ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	服薬管理指導を受け、服薬は理 解している。体調変化に対応で きるよう努めている。(下剤調 整、経過観察、てんかん発作薬 等。配薬時服薬時服薬後三重 チェック体制)		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	お米をとぐ、掃除や家事の手伝 いをしてもらう。ちぎり絵や季 節の壁紙づくりに達成感を味わ っている。カラオケやゲームを 実施。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	ご家族様による外出支援。天候 季節事のドライブ、散歩等買い 物に近所のコンビニへ外出す る。障害者支援サービスを利用 し外出をする入居者もいる。	年間外出計画に基づいて、季節 ごとの外出支援をしている。徒 歩園内のコンビニや買い物、散 歩に外出している。障害者支 援サービス(移動支援)を利用し て外出される方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	ほとんどの方は自己管理が困 難である。施設でのバザー一時 は好きなものを選ぶ方もいる。 買い物する金額をご家族が渡 している方も数名いる。		

自己評価	外部評価	項 目 (2階 ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	難聴等電話はかからない。はがきなど代読することはある。携帯電話を持っている入居者が3名おられる。5月末から家族様にホームより近況報告の手紙を書いて伝えている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロアを清潔に努めている。ホールには季節に応じた作品を飾り、テラスなどで季節を感じて頂く。日めくりカレンダーを大きい字に替え、わかりやすくしている。	季節毎の飾りつけを利用者と職員が共同で作成し、壁面に飾っている。作品展示は、近隣のコミュニティセンター（いきいきプラザ）の文化祭に出展している。木目調を取り入れたつくりで家庭的な雰囲気を作りだすよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルの配置や椅子を所々に置きソファも利用して過ごしている。テレビが見やすいよう動かしたり、席を移動したりする。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	カープファンカレンダー貼り付け、写真やタンス、仏壇を持ってきて使用している方もいます。本人が動きやすく、介助しやすいようにセッティングができています。	今までの自分の居室に近い環境づくりを基本としている。入居時に使い慣れたものを持参して頂くようお願いをし、本人と家族と相談しながら個々の生活スタイルに沿ったスペースづくりを心掛けている。掃除や換気に努め、清潔で安全な居室となるように職員間で留意している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	張り紙等場所の理解誘導を行い、自律支援に繋げている。		

V アウトカム項目（ 2階 ） ← 左記（ ）内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項 目（ 3階 ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	職員一人一人が日報に記述し、関心を持ち実現すべき心がけています。また、実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	カフェや福島地区文化祭に参加する。行事等を行い地域との交流を図れている。また「花と緑のまちづくり」花壇植替え緑化活動を継続し取り組むことで利用者の社会参加を促している。敬老の日に合わせて幼稚園児が訪問し交流をもっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	行事等通じて施設や認知症人に関心をもってもらい接し方を助言したりしている。毎年バザーを開催し、一部収益金を地域に還元している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	偶数月の第三（水）13：00より開催。参加者が固定しているが、情報提供意見交換している。いきいき体操に参加している方もいて、体操終了後開催することもあります。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	西区生活課のケースワーカーや民生委員への報告、相談をしている。観音圏域包括センター等認知症応援団に参加している。		

自己評価	外部評価	項 目 (3階 ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束等委員会定期的に開催し、随時回覧報告を行いケアに取り組んでいる。玄関の施錠はせん妄・帰宅願望等に応じて予防策を実施している。三階フロアは開放中。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	抑制的ことば使いなど掲示し自己啓発に努めている。職員同士で介助を見直し、二人で介助するなど精神的なフォローを行う。入浴、脱着時の身体チェック変化時看護師及び管理者への報告を義務づけている。個別にスタッフ面談し指導する。ビデオ撮影による現場研修も行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	社会福祉協議会のかけはしを利用している方がおられ、情報提供を頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	介護度が重度になり、特養への住み替え相談や入院後施設へ戻れなくなった際など関係者を交え行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会や運営推進会議・面会時等意見聞いて反映できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目 (3階 ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営について代表者は年2回全体会議で報告がある。話を聞く機会はない。共有する議題や提案は、ユニット単位のミーティングを実施し意見交換をしている。業務改善に繋げている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	毎月シフトを作成する時に月2日の希望休は、ほぼ可能に取れている。スタッフ不足で時間外労働は、全員が協力し補っています。体調不良者には傷病手当提案します。勤続年数10年15年表彰があります。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	必要と考えられる内外の研修に参加し、働きながらのOJTを行っている。各種委員会不定期となっているが、職員の能力向上を目指しそれに応じた環境を整備する。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	相互訪問活動に取り組みたい。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前の習慣など要望意向を聞き確認している。日々時間にゆとりがあれば聞き取りながらできる。		

自己 評価	外部 評価	項 目(3階 ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	担当者会議や面会時に要望意向を聴き確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	施設体験入居や家族介護者の入院などで急なショートステイを受け入れる。特養の申し込み、特養が空くまでなど要望に対応する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	全て介助するのではなく、本人のすることは、家事など役割をもって共同生活をする。フロアでの作品づくり共同作業など楽しむ。残存能力に対するアプローチを日々積極的に検討している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	外出外泊を家族様に協力頂いている。6月より居室担当者が、家族に手紙を書く取り組みを行っている。面会に来られるのが難しい家族様に近況報告をしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	墓参りやデイサービスには行くことはある。又、人物に関しては面会頼みとなっている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (3階 ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人で過ごしたい利用者の性格や時間を把握し、大切にしている。合同レクや外出行事に、互いに声を掛け参加を促している。相性が悪い等トラブルを回避するよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	挨拶状などで関係性を継続し、相談援助に努めたい。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日の会話から、本人の思いや希望になるべく添えるよう努めている。無理にレクレーションに参加することなく、その人に好きなことをしてもらっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	フェイスシートをもとに、生活歴や職歴趣味等情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	定期的なミーティングだけでなく、毎日スタッフ同士でコミュニケーションをとって現状の把握に努めている。その都度その人の状況を相談している。		

自己評価	外部評価	項 目 (3階 ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ミニミーティングなどを行い、現状の対応を理解し行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者別情報提供シートや申し送りノートを利用し、情報を共有し介助に反映している。状況変化に応じてその都度話し合っ、どうすればいいか検討しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	デイサービス、介護タクシーで外出等可能な限り、複合型施設を活用する。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	「花と緑の街づくり」事業に参加し入居者と共に行う。認知症カフェに入居者参加し、外出の機会を少しだがをつくれている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月数回の主治医往診あり。または家族の支援で通院している。入居前から通院している利用者の中には介護タクシーを利用し同行介助している。夜間緊急時看護師や主治医に連携し指示を仰いでいる。		

自己 評価	外部 評価	項 目(3階 ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	本人の訴え、処置時観察をまとめて、看護職と連携し支援している。それにより外来受診や点滴など早期医療連携に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報提供書を作成し病棟へ提出している。カンファレンスに看護師や管理者が参加し、協議し受け入れ態勢を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に説明すると共に、食事水分摂取量低下状況嚥下等胃ろうや延命についてターミナルをどこで迎えたいか（ACP）看取り希望等家族本人へ意向を確認する。職員同士の情報交換を密にし、調整し取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時マニュアルをもとに、掲示確認や回覧にて啓発に努め、ヒヤリハット事例検討の際に再確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	掲示物啓発で確認、年2回消防署立ち合いのもと訓練実施する。新任参加・地域住民への参加呼び掛けしている。避難場所は理解できているが、協力体制は未知数である。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ 3階 ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	接遇等意識づけしている。利用者一人一人に対して、具体的にどうしたかなど申し送りを共有しサービスの向上に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	スタッフが交代するなど言いやすい環境をつくる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人のペースを大切にし、本人の過ごしやすい環境づくりに努める。転倒リスクなどが先に立ち、添えないこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	援助が必要な方には、季節ごと衣替えを行う。その日に合った服装や日々の身だしなみに注意し対応できている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	日曜日の昼食は、準備など役割分担しながら行う。合同レク行事等ボランティアと一緒にすることもある。テラスの菜園でサンチュ収穫などより食事を楽しんでもらえるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目 (3階 ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎食後食事や水分摂取量をチェックし、摂取量が減少している時は代用品で対応する。食事形態やエンシュア、ゼリーや好みの飲料で水分確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、声掛け誘導にて歯磨きを行っている。スポンジブラシなど残存物の取り出しや義歯の洗浄実施。定期的に毎週水曜日協力歯科往診により義歯洗浄、プラーク除去等をお願いしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一日の排泄があった時間内容をチェック記入し、スタッフ全員で管理し失敗がないようにしている。夜間はポータブル使用や誘導で便座に座る、立位不可な場合は定期的なパット交換しオムツの軽減に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎朝、体操レク運動に参加促す。入浴時腹部マッサージをする。排便ノートの活用にて排便パターンを把握して、下剤を服薬調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴曜日時間は2グループに分けて対応。本人の気分や体調により臨機応変に。皆様入浴を楽しみにされており、その気持ちに応えられている。現在リフト浴者いない。		

自己評価	外部評価	項 目 (3階 ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	日中はできるだけ活動を促し、 昼夜逆転しないようにする。夜 間は照明や空調に配慮して気持 ちよく休んで頂けるよう支援し ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	服薬管理指導を受け、服薬は理 解している。体調変化に対応で きるよう努めている。(下剤調 整、経過観察、てんかん発作薬 等。配薬時服薬時服薬後三重 チェック体制)		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	お米をとぐ、掃除や家事の手伝 いをしてもらう。ちぎり絵や季 節の壁紙づくりに達成感を味わ っている。カラオケやゲームを 実施。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	ご家族様による外出支援。天候 季節事のドライブ、散歩等買い 物に近所のコンビニへ外出す る。障害者支援サービスを利用 し外出をする入居者もいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	ほとんどの方は自己管理が困 難である。施設でのバザー時は 好きなものを選ぶ方もいる。買 い物する金額をご家族が渡し ている方も数名いる。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (3階 ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	難聴等電話はかからない。はがきなど代読することはある。携帯電話を持っている入居者が3名おられる。5月末から家族様にホームより近況報告の手紙を書いて伝えている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロアーを清潔に努めている。ホールには季節に応じた作品を飾り、テラスなどで季節を感じて頂く。日めくりカレンダーを大きい字に替え、わかりやすくしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルの配置や椅子を所々に置きソファも利用して過ごしている。テレビが見やすいよう動かしたり、席を移動したりする。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	カープファンカレンダー貼り付け、写真やタンス、仏壇を持ってきて使用している方もいます。本人が動きやすく、介助しやすいようにセッティングができています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	張り紙等場所の理解誘導を行い、自律支援に繋げている。		

V アウトカム項目（ 3階 ） ← 左記（ ）内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームありらん

作成日 令和元年9月11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	職員によって言葉使い、介護技術にバラつきがある。	介護技術の統一、丁寧な言葉使い全員ができるようになる。	介助時にアドバイスをしあう。研修後伝達を行う。	1年
2	7	入居者に対し、言葉の乱れ、手などに内出血痕があることがある。	丁寧な言葉使いで接し、無理な介助はしない。	接遇も学び注意助言をスタッフ間で行う。スタッフ間における精神面のフォローをする。	1年
3	26	担当職員がモニタリングを行っているが、このままでいいのか。	チームとして、介護の方向性1年、3年後を見据えたモニタリングを実践していく。	スタッフ全員が、その入居者に、どうなってほしいかを考える。	1年
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。